



同窓会報

第 43 号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同 窓 会
仙台市青葉区川内蔵橋通一
番二二一五六一(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三十四号

巻頭言

会長 西澤 潤一 (中44回)



攻撃を受けることはなかったという。それにも係わらず、日本は暗号を盗まれ、作戦はすべて筒抜けだったとも言っている。こんなことで近代戦を対等に戦うなどということは出来る訳がない。

つい最近和蘭陀のヘーシンクさんが亡くなった。よもやと思われた神永昭夫さんが一氣に押さえ込まれて負けて大騒ぎになったことが思い出される。当時日本講道館を中心に日本が当然勝つと信じていたから大変驚いた。然し当時から今に至るまで、何方も三船柔道の話をなさらないのは私には理解が出来ない。三船十段は文字通りの軽量小型であつたが、相手の体の何処かに体が触れるか触れない内には手が触れているとは見え

最近の国際関係を見聞していると、全く日本の国力は低く見られてしまつて、随分酷いことをされているという気がする。今は日本は戦闘をすゝる気がないからやむを得ないとも言えようが、昔は、戦闘をすれば劣勢だと思われていたのに能く勝利を遂げる事が非常に多かった。それが、国力が向上するにつれ余りそのようなことを聞かなくなり、先の世界大戦では逆のことが多くなつた。ミッドウェー海戦あたりでは秘密防衛など全く考えられていなかったとも言われており、米空母は早々と遠洋に逃げていると直接

攻められる。ところが日本柔道もヘーシンクに負けた頃から

体力派が表に立つようになり三船柔道は姿三四郎以来、表に出ることは無くなつたかに見える。五味康祐さんの小説で得た知識程度の私の理解によれば忍術の要点は見切りにある。相手に近付いた時相手の術がどれ位であるかを見切つていなければならぬ訳で、試合が始まってから見切ろうなどと言うのでは手遅れである。だから他人の試合を見ようとし、見られる方は道場の窓に立つて見ている人を背後に廻つて捕え、撲り殺したと伝えられている。事前の見切りを防いだのである。

はこの様な異常と思われる感覚が現存していることは確かであろう。目立たない植物などには、驚くべき能力が隠されていることも考えられる。戦後、科学に刺激されて超能力の力は落ちた。何れにせよ西欧文化の導入が始まって東洋的な感覚まで無視されることが多くなり、日本の、日本人の能力が著しく低下してしまつたことは充分に考えられる事である。柳生流に、名前は記憶が怪しくなつてしまつたが、波切りとか言つて柄を握つた小指の一部を切り落す技があつたと記憶するが、この後の第二撃に本命があるにしても、この前の小技には大変大きな効果がある。このような一見小技に見える技にも実は重大な価値があり、決して軽視出来ないことが分るのである。

これまで東北地方から極めて創造的な且つ重大な着想が輩出された例はむしろ多かつたと言つてよいと思う。蘭学の杉田家の後継者として養子に入つたのも東北地方からであつたし、何故と言いたくないが、林子平や高野長英という逸材が唯一とも言つてよい交流口である長崎から遠く離れた東北に育つたということに刮目すべきことである。つまり東北は独創的人材を生み出したことによって活動の場を提供したと言つてよいと思う。

それがどうして大成しないのかという不思議もある。若い中に東北を脱出しないと大成しないかと教えて下さつた方も居られるし、その方の挙げた例は岩手県北部から青森県南部にかけて活躍され遂にはアメリカ、ドイツ、カナダ等に進出された新渡戸稲造先生、明治草創期の財政を担つた高橋是清以降の三大蔵大臣なども数え上げることが出来る。何れにしても、東北地方の持っている精神文化の展開は、極めて高いものがあり、嘗ての歴史の中に数多く見付け出すことが出来る。然し、次第に忘れ去られて、今日では、それだけ立派に育つた例を発見することは出来なくなつてしまつたのかも知れない。東北地方の精神文化の発達の素晴らしさは残念ながら見出すことが難しくなつてしまつたのかも知れないし、学びの形態もすっかり米国式のプラグマティックなものになつてしまつたのかと思ふことが多くなつた。東洋における教育は人を育てることを目標とした。すなわち人間の質を対象にして、目標ではなくその成長の資質だけを対象にした。従つて弟子は先生より育つて大物になる可能性を秘めていることになる。合目的のアンチヨク教育ではあり得ないことである。(学校法人上智学院顧問・上智大学特任教授)

去る十月二十一日(金)、曇天ながら雨の心配もなく午前十一時四十分過ぎに始まった「三船久蔵十段揮毫『文武一道』記念碑」の除幕式で、夜まで及ぶ長い記念行事の幕が文字どおり開いた。

丁度三校時目が終わった生徒達が見守る中、校舎中庭で厳かな中にも晴れやかな雰囲気のもと、庄司校長の挨拶の後、校長・真田PTA会長・山下同窓会副会長・高橋奨学会理事・若林生徒会長の手によって幕が引かれ、記念碑が姿を現すと、生徒達から「おーっ!」という歓声が上ががり、見事な石碑(鳥海石・横一・九〇m×高さ一・三五m)が神々しく輝いた。その後、柔道部のOB会である「北陵柔道会(高16回佐々木優登会長)」から三船十段の写真・パネル「得意技「空気投げ(隅落)」を決めた瞬間」が学校に贈られ、除幕式は無事終了した。

創立百十周年記念行事、盛大に挙行!

昼を挟んで午後一時、場所を東北大学川内萩ホールに移し、一、二〇〇人を超える参加者のもと丸山泰雄氏(高35回)のチェロ演奏に乗せて記念式典が始まった。庄司校長の式辞に続き、実行委員長として西澤会長が挨拶を述べる予定であったが、体調不良とのことで除幕式に引き続き山下副会長が代わりに挨拶を述べ、歴代校長・PTA会長への感謝状贈呈が行われた。そして、小林伸一県教育長の祝辞に続いての若林生徒会長の挨拶は、二高の一〇年の歴史の重みを受け止め、未来につなげて行こうと生徒全員に語りかける内容の話であり、同窓生として深く感動するとともに、今も素晴らしい後輩を育み続けている母校を改めて誇りに思った瞬間でもあった。

引き続き行われたパネルディスプレイでは、本校生徒の保護者でもある東北放送アナウンサー佐藤修氏の軽妙な進行により、佐藤寿彦氏(株GIP社長・高25回)・鈴木

武一氏(元ベガルタ仙台監督・高27回)・丸山泰雄氏(チェリスト・高35回)・日向寺太郎氏(映画監督・高36回)の四氏の経験に基づく実社会での活躍の様子に在校生も神妙に耳を傾けながらも、質問の際には現代っ子らしい質問が飛び出すなど、和やかな雰囲気であったという間の一時間半であった。



『文武一道』記念碑除幕式

左より真田昌行PTA会長、庄司恒一校長(高22回)、生徒会長若林優太君、高橋正道奨学会理事(高3回)、山下健二同窓会副会長(高8回) 二高中庭にて



三船十段空気投げの瞬間—柔道部OB会による大判写真の寄贈

左端：北陵柔道会鈴木亮一幹事長(高23回)

右端：同会鈴木裕事務局長(高27回)

中央：庄司恒一校長



110周年記念式典 歴代PTA会長へ

庄司校長より感謝状贈呈

東北大学川内萩ホールにて

祝賀会におけるチェロの演奏

丸山泰雄氏(高35回)、

ピアノ伴奏中川賢一氏(高39回)

江陽グランドホテルにて



立百十周年にちなんだ相撲甚句が披露され、終始和やかな雰囲気で幕を閉じた。担当理事として、この日を無事に迎えることができたことの安堵感と、記念事業に関わった全ての方々に深く

感謝する思いで一杯であると同時に、十年後の百二十周年(大還暦)に向けて改めて意を強くした一日であった。

創立百十周年記念事業
担当理事
中條 克浪

応援歌探訪 第二回

凱歌

一、 暁かけて匂ふなる
桜の花に武士が
ひそかに秘めし情こそ
我が若人の精神なれ
五城楼春の月
清き哉 その光

二、 灼熱怒風何がある
攻めなば攻めよ斃るとも
尚止まずてふ意気こそは
我が若人の生命なれ
泉岳我が希望
何時の世も高からん
血涙こめて築き得し
光栄の歴史を今にして
など汚すべき我が胸に
北陵健児の誉あり
広瀬川 我が思ひ
永久に尽きざらん
敵壘如何に叱咤とも
鉄腕更に叱咤して
天地動もす雄叫びは
我が若人の力なれ
我が友よ矛とれや
戦はば 我勝たん
夕陽西に傾けり
ああ我勝てり 我勝てり
聞け常勝の意気こそは
我が若人の誇りなれ
我が友よ歌はなん
いざ共に光栄の歌

母校の百十周年記念を
節目として前号（平成二
十二年春季号）から応援
歌探訪を連載している。
前号の『対一高戦歌』に
続き今回は『凱歌』を取
り上げたい。

◇ 会報第3号（昭和四十
五年七月四日）及び第9
号（昭和五十一年七月三
日）に後藤敏道氏（中30
回）による解説がある。
それによると、同氏が入
学した大正十四年（西暦
一九二五年）八月九日東
北の名門盛岡中学（現盛
岡一高）を決勝で破り、
多年望んで止まなかった
制覇の夢なつて、二中野
球部は甲子園に初めて駒
を進め、凱歌はこれを記
念して作られたとある。
作詞は対一高戦歌と同じ
岩崎直砥先生である。当
時先生は既に京都に御異
動後であったが、京都の
地から毎週激励を寄せら
れたとある。曲は旧制第
七高等学校造士館創立十

四周年記念祭歌『北辰斜めに』
が元歌である。この『北辰斜
めに』は最近ではインターネッ
トでも試聴が可能である。

旧制第七高等学校造士館第十
四回記念祭歌『北辰斜めに』
七高造士館同窓会による録音
http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/~dosokai/dosokai/enkaku/7kou/kouka/01-hokushin_naname/index-hokusai_naname.htm
『凱歌』— 仙台二高同窓会公
式サイト
<http://www.sendainiko-dousoukai.com/sun/song.html>
（何れも平成二十二年十一月現在）

お聞き頂ければお分かりの
通り、元歌の方がテンポがずつ
と速い。後藤敏道氏も上記昭
和四十五年会報の中で現二高
生徒の歌い方は遅過ぎる旨を
指摘している。本校でも初め
の頃はもっと速いテンポで歌
われていたことが分かる。

この『凱歌』、当初『野球部
凱歌』と称されたが、後に野
球部の『部歌』とされ、更に
戦後は『凱歌』と称されている。
先の『対一高戦歌』もそうで
あるが、本校の応援歌は野球
部の活躍と密接に関係してい

る。この『凱歌』は本校が甲
子園初出場の際の記念歌であ
る。その伝で言えば、先の昭
和三十一年甲子園出場の際も
記念歌が作られて然るべきで
あったが作られていない。作っ
て置けば良かったと、当時の
応援団長の麻喜宏雄氏（高9
回・現同窓会副会長）が残念

がっている。次の出場の際に
は生徒諸君の手により記念歌
を作って頂きたいものである。
◇ 今後も他の曲を取り上げる
予定です。関連資料等を求め
ておりますので、同窓会事務局
等に御連絡頂ければ幸いです。

卒業生のアルバムから



昭和31年夏仙台二高甲子園出場 — 仙台駅での壮行風景
旗を振るのは応援団長麻喜宏雄氏（高9回）

昭和31年の仙台駅、甲子園に向かう生徒らが乗っている客車は今の
新幹線などとは全く違う旧型客車で、近年イベント等で引っ張り出
される所謂『レトロ客車』です。なんと言っても窓が開きます。送
る側と送られる側の気持ちの伝わり方が画像から今もお発せられ
ています。（写真：河北新報提供）

御写真の御提供を

会報編集担当

平成22年春季号から新企画『卒業生のアルバムから』を始めまし
た。各回期の皆様の卒業アルバムは勿論のことが在校時に撮影した写
真などを御提供願います。皆様の御写真は時代時代を物語る貴重な
記録であると共に、集約することで潤沢な歴史的資料にもなります。
先ずは同窓会事務局に御連絡をお寄せ下さい。
FAX・0222122115686 電話・0222122115651

支部総会 同期会 開催報告

五三(ゴミ)の会 懇親会等開催報告

佐藤 宏一 (高5回)

五三の会は、一九五三年卒の同期の集りの会で東京地区(東京五三の会)と仙台地区(仙台五三の会)に分れ、各々定期的に懇親会を開き懇親の和を深め、今年七十七才(喜寿)の祝い年を迎えた。

「仙台五三の会」では年二回(春・秋)「仙台二高五三の会」会旗を会場に掲げ会旗のもとで、毎回二十五〜六名が集り近況等を語りあい、残された人生を如何に過ごしていけるかお互いに元気を与えあっている。毎回、会の終りには校歌・凱歌を声高らかに歌い上げ二高生の誇りをしみじみ感じとって



会旗は二十数年前に作られ、歴代の世話人代表に引継がれており我々も先代に習って会旗のもと会員の親睦を図っていききたい。

「東京五三の会」では東京地区で毎年ゴルフ、旅行、忘年会を開き友情を暖めている。六月には十六年振りのハワイ旅行を東京四名、仙台三名計七名の参加で喜寿記念としておこなった。十六年前は還暦記念として二十七名の参加があり盛会だったが、参加者の減少は、十六年の年月の移り変わりを感ぜさせられた。十二月には恒例の忘年会を二十数名の参加で実施の予定。

十月十三日の東京地区仙台二中・二高同窓会総会で高5回の佐藤隆輔氏が新しく会長に就任した。今後の活動を会員一同で支援していく。

連絡先

東京地区世話役 佐藤 宏一
〇四七―四六六―七九〇四
仙台地区世話役 菊地 司
〇二二―二九六―〇五三三

仙台二高ピンピン会 「奥の細道踏破 達成」報告

三浦 二郎 (高11回)

起点の探茶庵を五月十六日出発し、奥の細道結びの地の大垣には九月十九日到着した。全行程二四〇〇キロを十八区間に分け一区間五キロ前後を歩き残りは車行、参加者は延べ一二七人に及んだ。象潟から大垣までは猛暑と重なり特にきつかった。芭蕉忍者説もあるが、忍者と思わせる健脚ぶりが踏破してみて分かった。当時四十六歳の芭蕉に負けず我々も古希の健脚を十分に証明できたと思っ



編集部からの御願い

―新企画への情報及び原稿の御願い―

会報編集では次の企画を進めています。

一、応援歌の歴史

現在、仙台二高には旧仙台中時代からのものも含め応援歌が十一曲あります。創立百十周年を迎え、これらの歌の創られた経緯、作詞者、作曲者等を改めて探訪するのめ意義深きことです。校歌を始め応援歌も校風や伝統の一郭を成しています。既に平成22年春季号に第一回を掲載し、当第43号では凱歌を取り上げました。このような解説を応援歌等全曲に及ぼすというのがこの企画の趣旨です。そこで、各応援歌等の①作詞者、②作曲者(又は元歌)、③制作時期、④制作の動機などに就いて情報の御提供を御願い致します。

原稿等の送り先

宛て先は同窓会事務局、郵送もしくはファクスにて御願い致します。

九八〇―八六三一

仙台市青葉区川内瀬橋通一

仙台二高同窓会事務局

FAX 〇三三・三二二・五六八六

電話 〇三三・三二二・五六五一

『卒業生の進学先報告原稿在中』、『卒業生の活躍原稿在中』と封書及び書面に明記願います。

二、卒業生の進学先報告(仮題)「北陵健児の行くところ」(進学編)

卒業して大学に進み大学・大学院在学中の方へ。①今自分の在学している大学の様子、②自らの学生生活ぶり、③何を学んでいるか等を紹介して下さい。又、これは全国に展開する同世代の卒業生に

も有効な連絡方法となります。字数は八百字程度、写真も一枚程度。

三、卒業生の活躍(仮題)

「北陵健児の行くところ」(職業編)

既に社会に出て第一線で活躍している卒業生の方へ。

①自分の働いている分野の紹介、②担っている業務の概要、③仙台二高・旧仙台二中在学中の経験で社会人になって活かしているもの等を紹介して下さい。卒業生の活躍ぶりが同窓会全般に伝わり人材の多才さも改めて認識されます。字数は八百字程度、写真も一枚程度。

宮城県仙台第二高等学校 同窓会会則

最終改正 平成二十二年七月四日

第一条 (名称)

本会は宮城県仙台第二高等学校同窓会と称する。

第二条 (事務局)

本会事務局を母校内に置く。

第三条 (目的)

本会は会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。

第四条 (会員資格)

本会は会員及び客員をもってこれを組織する。

第五条 (支部の設置)

会員多数居住する地方及び団体には支部を設けることができる。

第六条 (事業)

本会はその目的を達成するため次の事業を行う。

1 会報及び会員名簿の発行

2 母校の事業に対する後援

3 講演会及び懇親会等の開催

4 その他本会の目的達成に必要な事項

第七条 (総会)

1 総会は毎年一回開催する。

2 必要に応じ臨時総会を開催する。

3 総会は会長が招集し主催する。

4 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

5 議決については以下各条項とも同じ。

6 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

7 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

8 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

9 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

10 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

11 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

12 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

13 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

14 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

15 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

16 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

17 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

18 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

19 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

20 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

21 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

22 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

23 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

24 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

25 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

26 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

27 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

28 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

29 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

30 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

31 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

32 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

33 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

34 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

35 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

36 議決には出席者の過半数の賛意を要する。

一 回廊常任委員は回廊ごとに互選により選出し、会長が委嘱する。

二 クラブＯＢ会常任委員は、会長が指定したＯＢ会等から評議員会に出席する者をその都度理事

会が委嘱する。この場合、クラブＯＢ会等はあ

らかじめ評議員会に出席する者を本会に報告す

るものとする。

三 常任委員は評議員会において意見を述べること

ができる。

四 常任委員は第三条の目的を達成するため、所属

回廊または所属クラブＯＢ会等の会員相互の連

絡調整に努めるものとする。

五 専門委員は評議員会において必要に応じ選出し、

専門委員は理事会において必要に応じ選出し、

専門委員は理事会の承認を要する。

六 専門委員は担当理事のもと業務を分担する。

七 会計監事は二名

八 選出については一項に準ずる。

九 会計監事は会計事務を監査し、評議員会及び総

会に報告する

十 校内幹事は若千名

十一 校内幹事は若千名

十二 校内幹事は若千名

十三 校内幹事は若千名

十四 校内幹事は若千名

十五 校内幹事は若千名

十六 校内幹事は若千名

十七 校内幹事は若千名

十八 校内幹事は若千名

十九 校内幹事は若千名

二十 校内幹事は若千名

二十一 校内幹事は若千名

二十二 校内幹事は若千名

二十三 校内幹事は若千名

二十四 校内幹事は若千名

二十五 校内幹事は若千名

二十六 校内幹事は若千名

二十七 校内幹事は若千名

二十八 校内幹事は若千名

二十九 校内幹事は若千名

三十 校内幹事は若千名

三十一 校内幹事は若千名

三十二 校内幹事は若千名

三十三 校内幹事は若千名

三十四 校内幹事は若千名

三十五 校内幹事は若千名

三十六 校内幹事は若千名

三十七 校内幹事は若千名

三十八 校内幹事は若千名

三十九 校内幹事は若千名

四十 校内幹事は若千名

四十一 校内幹事は若千名

四十二 校内幹事は若千名

四十三 校内幹事は若千名

四十四 校内幹事は若千名

四十五 校内幹事は若千名

一 会費 会員一人につき毎年 三〇〇〇円

二 入会金 在校生は卒業時に同窓会入会金として三

六〇〇円を納入するものとする。

三 寄付金その他

第十四条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十

一日に終る。

第十五条 (帳簿)

本会には次の帳簿を備えなければならない。

一 会員名簿

二 会計簿

三 資産台帳

四 会務録

第十六条 (会則改正)

会則の改正は評議員会の三分の二の多数で発議し、総

会の承認を要する。

この会則(平成十七年七月二日改正)は、平成十七年

七月より必要な事項から逐次施行し、平成十七年九月

十五日までに完了する。

補注 (略)

付則 (施行期日等)

一 この会則は、平成二十二年通常総会の承認を得

た翌日から施行する。

二 第八号第六項第一号、第二号及び第四号に関し必

要な事項は、内規により別に定める。

会則第八号第六項に関する内規

第一号関係

一 回廊常任委員は相互に連絡に努め、異動があった場合

はすみやかに本会に報告すること。

第二号関係

一 会長が指定するクラブＯＢ会等は次に掲げる条件を満

たすこと。

イ クラブＯＢ会等として、あらかじめ本会に届け出が

あること。届け出の様式は別に定める。

ロ 会員名簿を備え定期的に更新していること。

ハ 会として、年に一回以上総会、懇親会等の活動をし

ていること。

イ クラブＯＢ会常任委員への委嘱は、評議員会当日の受

付をもつてこれに代える。

ロ クラブＯＢ会等から評議員会への出席者の報告は、開

催通知への出欠の返信に記載して行う。

三 催通知への出欠の返信に記載して行う。

第四号関係

一 常任委員の行う連絡調整は次に掲げる行為をいう。

イ 評議員会及び総会等本会活動の会員への情報提供

(実績報告、開催予定等)

ロ 会員の名簿管理及び本会への報告

ハ 会員の名簿管理及び本会への報告

ニ 会員の名簿管理及び本会への報告

ホ 会費及び寄付金等の納入督促

同窓会総会 報告

去る七月三日(土)に江陽グランドホテルを会場にして平成二十二年度同窓会総会が開催されました。出席者は一〇人でした。その式次第は次の通りです。

同窓会総会

(十七時〜五階鳳凰の間)

開会の辞

会長挨拶 会長急用の為欠席
麻木副会長(高9回)

会報(春季号)で会長が、我ら卒業生たる者、自らの優れた天分を育て、生徒諸君に対しても抜群の指導力を発揮すべしと述べていらつしやる。こうした御発言を踏まえ真摯なる審議をお願いしたい。

校長 庄司恒一氏(高22回)
日頃からの御支援に感謝する。去る三月共学一期生が巣立った。期待され注目を浴びた学年であり、学業面も素晴らしい。今年から全県一学区となり、本校の倍率が一・〇倍となり二次募集を行ったが、過去の生徒と遜色は無い。子供から選ばれる学校創りのため今後とも御支援をお願いしたい。また、本校一〇周年記念事業も進行中であり、御支援等をお願いする。

来賓御紹介
叙勲者紹介
全国大会成果報告

奨励金の贈呈 議長選出

副会長麻喜宏雄(高9回)

第一号議案

平成二十一年度事業報告

第二号議案

平成二十一年度収支決算報告

同監査報告

第三号議案

平成二十二年度事業計画

第四号議案

平成二十二年度収支予算案

事業計画と予算案の説明が為された。

主な議論は次の通り。

・総会や新年懇親会の出席者数が減っている。理事

会はどう感じているのか？

・当番回期の活動を強化したい。また参加者増の努力の一環としてクラブOB

B会の常任委員化を考えている。

会場の拍手により承認された。

第五号議案

会則第八条第六項改正について、中條理事(高27回)

からクラブOB会代表を常任委員化する改正内容と理由の説明が為された。

・改正のみならず今後の運営が重要。

賛成多数にて成立した。

第六号議案

理事の承認

山下副会長(高8回)より、現理事の任期の一年特別延長の理由①目下進行中

の一〇周年記念事業を完

遂する為、②今理事改選と

すると一〇年後の一〇周年

の際にも事業進行中に理事

事交代となり事業推進に影響

が出るので今年一年任期

延長とすることで回避する

為との説明が為された。また、今日の総会に至るまでの

評議員会でも審議され三分の二超の承認を得ている

ことも説明が為された。

主な指摘は次の通り。

・反対である。基本的には

会則に沿って対処すべき。

満場の拍手により承認された。

第七号議案

会計監事の承認

犬飼健郎(高17回)二期目、

三浦二郎(高11回)新任、

共に承認された。

第八号議案

創立一一〇周年事業

中條理事より、記念事業

及び校内環境整備基金創設

等の内容及び理由の説明が

為された。特に校内環境整備

基金創設については、県

費で賄われる学校であるから

県費で賄って貰うべきである

との批判も承知である旨の

説明も為された。

主な指摘は次の通り。

・実行委員会が進めて来た

内容である。単純に学校の

誕生祝いと考える。

満場の会場拍手により承認

された。

その他報告等

・一一〇周年記念名簿の編集

作業が進んでいることの

報告。

・当同窓会公式サイト(資料配

付)

懇親会

(十八時〜五階鳳凰の間)

司会進行 松谷秀則(高33回)

物故会員への黙祷

開会の辞 松谷秀則(高33回)

校歌斉唱

当番幹事代表挨拶

吉田健三郎(高21回)

乾杯 共学一期生三名(男子

樋口大輝・添田敏寛・女子

多田明日翔)

アトラクション

チェロ 丸山泰雄(高35回)

ピアノ 中川賢一(高39回)

万歳三唱

同窓会理事

田中於菟彦(高15回)

評議員会 報告

平成二十一年度第三回評議員会
平成二十一年十二月十九日(出
十四時〜十六時十五分 於北陵館

議長選出 磐井 裕(高14回)

第一号議案

創立一一〇周年記念事業に

ついて

中條理事(高27回)から一

一〇周年事業計画について

説明が為された。

学校が主体として行い、P

TAと同窓会が協力する形

を採る。学校行事は通常の

行事に一一〇周年の冠を付

す。式典は学校側と同窓会

側と共催し東北大学川内萩

ホールを用いて行う。費用

等は九〇周年時の実績を参

考とし、費用は特別会計か

ら充てる。次年度の予算措

置と実行委員の人数が必要

である。

主な議論は次の通り。

・募金は考えないのか？

・特別会計からの支出は？

・一〇〇万から一三〇万を

考えている。一一〇周年

事業とは特別会計に言う

特別な場合に当たる。

一月一三日に準備委員会

を行いたい。

実行委員の人数は一任し

たい。

・実行委員は(規約にある)

専門委員会と位置付ける。

・共学化問題をどう捉える

かをはっきりせずには進

められない。

・多用な意見の一つとして

捉えたい。特定の考えに

特化すべきではない。

・揺り戻しのような議論は

止めて頂きたい。

・共学化には反対であった

が、今ある姿が母校の姿。

個々の考えは各々である。

それが許容されなければ

(理事は)全員辞表を出

す。

一一〇周年記念事業は満場

の拍手により承認された。

第二号議案

クラブOB会の活用

鈴木誠一理事（高22回）

から説明が為された。

同窓会の縦糸としてクラブ

OB会の活用の実績を積み

たい。若い世代の参加を促

したい。今日参加している

各部の代表を紹介する。ク

ラブOB会の代表を常任委

員化したい。またこれを機

会にOB会の再構築を願う。

主な議論は次の通り。

・規約との関連をはっきり

させるべき。

・常任委員活用は賛成だが、

常任委員化は早過ぎる。

・賛成である。総会に向け

鈴木理事に全権を預けて

進めたい。

・会則に則って進めるべき。

・支部代表も評議員に入れ

て頂きたい。

・次回評議員会まで纏めら

れたい。

満場の拍手により承認され

た。

その他

山下副会長（高8回）より、

次回総会に向け如何なる

方法により次期理事を選

出すべきか御意見を伺いた

いとの表明があった。

主な議論は次の通り。

・選考委員会を設置すべし。

・先の選考委員会は十年区

分の世代構成とする方式、

妥当だった。

・今の理事会が案を纏める

・今の理事会の仕事ぶりは

評価できるので、理事会

に任せる方式でも良い。

・選考委員会方式は賛成で

きない。前回は苦勞して

出した結論が評議員会で

ひっくり返された。

・理事に推挙されても峻拒

した人がいた。

・一一〇周年が目前、時間

的余裕無し。

・前回の選考委員の選定に

は年代区分としたが、なっ

て頂くまで過大な手間が

掛かった。

・あんな面白くない委員は

初めてである。理事会で

決めても良いのではない

か。

・理事会で選考案を出

して頂くが良い。

・学年に偏り無く出して頂

きたい。

・理事会で検討を進めること

とした。

共学化問題について

主な議論は次の通り。

・会報（42号）の会長巻頭

言には、冷静に渡り切る

ことを期待したいと有る。

これにて収束としてはど

うか？

・教育科学的資料に基づき

常に反省が必要と会長は

述べている。理事会の役

割分担にも教育問題研究

担当が設けられている。

・先の会報に『嬌声』と言

う語が用いられている。

・女性特有の声という意味

である。他意は無い。

・男子生徒は挨拶をするが

女子生徒は必ずしもそう

ではない。このぐらい変

わったのかと思う。

・学校側ともしっかりと接触する

機会を増やしてはどうか？

・学校側とは不定期ながら

も接する場を設けている

が、学校側として言い難

いこともあるようだ。

・会報は言葉を選んで発行

して欲しい。また学校の

立場も考えるべきである。

・共学化後母校がどうなっ

ているのかを正確に伝え

ることが役目と考えてい

る。

・共学化と決まってしまう

たものなので、共学化前

提でより良き二高を考え

て行くべきである。

・会報（42号）の会長巻頭

言が同窓会の総意と考

える。

平成二十一年度第四回評議員会
平成二十二年三月二十七日(出
十時)十二時三分 於北陵館
議長選出 前野文男（高18回）

第一号議案

クラブOB会代表の常任委

員化

（会則第8条第6項の改正）

について

中條理事（高27回）より

提案内容及び理由の説明が

為された。

主な議論は次の通り。

・趣旨に賛成である。

・常任委員の権限の規定が

細か過ぎる。

・細かい所は内規扱いで構

わない。

・兼任は出来るのか？

・より多くの人の参加とい

う趣旨からすると兼任は

避けて頂きたい。

ほぼ全数（三分の二超）賛

成により可決した。

第二号議案

理事改選について

中條理事（高27回）より

現理事の任期を特別に一年

延長することの提案が為さ

れた。説明では、目下百十

周年記念事業が進行中であ

りその途中で理事が全員交

代となると事業完遂に支障

を来すため、またここで交

代することにより十年先の

百二十周年記念事業時にも

同様の事態が生じるのでそ

れを回避するためとの理由

が示された。

主な議論は次の通りである。

・規約を改正（平成十七年）

して間もないのに規約に

反することをを行うのは重

大なことである。百十周

年記念事業は分かっていた

ことであり、もっと早

めに周知すべきだったの

ではないか？

・理事会の中でも去年から

提案が為されていたが、

理事個々の納得まで時間

が掛かった。時間が掛かっ

たことは申し訳ない。

か？

・代行とすると理事として

の権限が無く会務遂行に

困難を生ずる。

・今の理事は一所懸命やっ

ている。この百十周年を

百二十周年に向けての幕

開けとしてはどうか。

・百十周年記念事業遂行に

やり易い方法なら任期延

長も考えられる。

・会則が一番の支えである。

改選を行い同じ人を選べ

ば良いのでは？

・ここで改選となれば十年

後の百二十周年時の同様

問題が回避できない。

・今の理事の一年延長なら

理解できる。寧ろ、評議

員会からお願いするべき

ことなのではないか？

ほぼ全数（三分の二超）賛

成により可決した。

第三号議案

創立百十周年記念事業実行

委員の選出（会則第8条第

7項の規程による専門委員）

中條理事（高27回）により

提案が説明され、五名の候

補者を推薦した。

主な議論は次の通り。

・百十周年は目の前であり、

仕事は遅れ気味である。

早く進めて頂きたい。

・今の経済状況を考え募金

は止めて頂きたい。

高橋和雄（高13回）、岡崎

正行（高28回）、尾形昭範

（高30回）、土門高大（高34

回）、関裕介（高38回）の

五名が全員賛成にて承認された。

その他

・公式サイトの更新状況が芳しくない。

・当公式サイト設置の趣旨は同窓生に対する連絡と公正な運営である。今後同窓生各回期等が運営しているサイトとのリンクを図る、歴史的な写真等の資料を掲載する、会報過去号を掲載するなど充実に努める。

改善の具体案を次回評議員会にて報告することとなった。

連絡等
百十周年記念事業については学校側の事業は従来の学校行事に一一〇周年と冠を付すことで進めている。一〇月二二日には記念式典を予定している。費用は特別会計からの繰り入れである。

一一〇周年の同窓会名簿の発行は姫路に本社が有り全国展開しているサトという会社にて委託して行う。平成二十二年五月頃に案内状が送付される見通しである。

校内の設備整備については要求されたものを全部行う訳ではない。次回評議員会で確たるものを提案したい。

主な議論は次の通り。
・今のまま放って置くと母

校が荒廃する。

・全県一学区となり優秀な生徒一〇〇名が南学区に流れた。校長とも話をしたが付加価値が求められている。

・百十周年記念事業のことを公式サイトに掲載すべきである。

また、麻喜副会長（高9回）より昨日西澤会長からの言葉として、最近の教育は知識の付与に偏っている、人作りが大切、一学期でも全寮制を検討してはどうかなどがあったとの報告が為された。

平成二十二年第一回評議員会

平成二十二年総会向け

平成二十二年五月二十九日（土）十時～十三時五分 於北陵館
議長選出 前野文男（高18回）

第一号議案

平成二十一年度事業報告

第二号議案

平成二十一年度収支決算報告

第三号議案

・会報の単価が高いのではないかと、

・昨年来単価下げの努力を行い、既に七％削減済みである。

・会費納入率はどうか？

・平成十八年度―九五四五千円（三一八一名）、

・平成十九年度―八七〇六千円（二九〇二名）（九

％減）、

・平成二〇年度―八六〇八千円（二八六九名）（一

％減）、

・平成二十二年―七九九八千円（二六六六名）（七

％減）、

・漸減傾向は変わらない。

・当年度は八四〇万円二八〇〇名と予算を組んでいる。これを割ると赤字になる。

監査報告―平成二十二年五月一日付け安藤・犬飼

第三号議案

平成二十二年事業計画

・北陵祭（八月二八日・二十九日）の百十周年記念事業との関連は？

・例年通りの行事であるが、百十周年の冠を付して行う。

・十月二二日の記念式典は何を行うのか？

・記念式典の後にパネル討論を行い、夕方に祝賀会を行う予定。

第四号議案

平成二十二年収支予算案

・会費二八〇〇名納入の手立ては何か？

・互いの声掛け、会報を通じた呼び掛け、銀行からの振り込み方式の設定。

・会報発送費の節約を願う。

・一一〇周年記念事業をしっかりとやって頂きたい。

第五号議案

創立百十周年記念事業（校内環境整備基金）について

基金の設置については理事会の中でも賛否の議論があり、全員一致ではない。魅

力在る学校作りに資するべく、三年間で五〇〇〇万円の目標を立てた。同窓会からは特別会計を原資として五〇〇万供出する。

・一一〇周年と校内環境整備は関係ない。

・困っている現役生徒を前にして何もしない訳には行かない。

・会費減収の状況下で無理して何故校内整備にお金を出さなくてはならないのか？

・女子生徒が入学したから発生した問題ではない。

・昨今の経済情勢でお金は集まるのか？

・共学化に反対し共学化を止めるべく色々活動した。何のためらいも無く全面的に協力する訳には行かない。

・同窓会としてこの程度のことは行うべし。

・共学化反対あれど、それとは別。

・後輩のために何がやれるかが大切。

・賛成過半数により本案は成立した。

第六号議案

会計幹事の選出

第七号議案

会計理事の選出

会則第八条第六項関係の諸規定について

書式等の設定案

公式サイト運営状況の報告

平成二十二年第二回評議員会
平成二十二年十月二日（土）十時～十一時三十分

議長選出 高橋賢（高17回）
報告（一）創立百十周年記念事業

・記念式典、校内環境整備基金、名簿発行について

・何部印刷するのか？

・注文分印刷する。共学化の影響か名前削除希望が寄せられている。前回より部数は下がるだろう。

・協賛金は如何ほどか？

・一万円である。

・広告の発注をしたら請求書が来た。

・予約制、前納制である。

報告（二）同窓会費納入状況

・納入状況中間報告

・前年に比し百二十万円減収である。金額の大きいものの節減を図らねばならない。

・評議員各位にあっては会費納入の促進をお願いしたい。

当面の会報発行について

・第一案―当年度の会費収入状況に合わせた会報発行となると、B5判4頁、白黒、写真無し、企画記事は先送り、事務連絡主体のものとなる。

・第二案―不足する額は特別会計から補填し次号会報は通常通りの発行とする。

・第三案―会報発行費用の内相当額を占める発送費を削減

するために、会報発送先を会費納入者に限定する。
主な議論は次の通り。

- ・会費納入額が一年間で千万円のころに年間二号体制とした。

- ・次号にも会費払込票を同封してはどうか。

- ・未納の人には送らないとしても周知の時間が必要。

- ・会費を納めた人にだけ送ると会費は伸びない。

- ・会費の他に寄付制も考えようか。

- ・会費納入にポイントをつけて一定点数以上に達したら免除としてはどうか。

- ・今までと同じ内容で世論を喚起せよ。

- ・次号（平成二十二年冬発行分）については不足する額を特別会計から補填し従来通りの発行とすることとした。

報告(三) その他

次期理事選考方式

次回評議員会で結論を得たい。次期理事選考方式について御相談し上げる。

- ・選考委員の人選を理事会に一任するのは矛盾。選ばれた側が選ぶ者を決めることになる。

- ・選考委員会の形を残す方がよい。

- ・理事は評議員会の意思により決まるもの。ここに集まっている評議員を選考委員としてはどうか。
- ・次回評議員会で選考委員

理事会等記録

を決めることとし、案内状にその旨を記す。

平成21年11月18日(水)

・東海北陵会（11月7日）出席の報告

- ・一一〇周年記念事業に関する検討―設備整備への支援

- ・常任委員に部活動枠を設けることの検討

- ・一一〇周年記念名簿発行に関わる検討―委託先調べ

平成21年12月19日(土)

- ・筑波大生（12月9日）聴き取り来訪への対応の報告―筑波大3年生が授業の一環として同窓会に聴き取り
- ・クラブOB会の評議員会への参加声掛け報告
- ・一一〇周年記念事業準備状況の報告
- ・一一〇周年記念同窓会名簿の作成委託先の選定
- ・クラブOB会常任委員化へ向けた検討―同窓会規則の改正

- ・理事選考委員会の在り方に関する意見交換

- ・理事選考方式に関する意見交換―選考委方式か評議員会互選方式か

平成22年1月22日(金)

※簡易理事会（新年会直前・於ホテルメトロポリタン）

- ・一一〇周年記念事業に関する準備状況の報告

- ・常任委員の在り方に関する検討の中間報告

平成22年2月24日(水)

- ・一一〇周年記念名簿発行に関する検討―業者比較

- ・一一〇周年記念行事に関する検討―実行委員の選任及び校内環境整備基金の創設について

- ・会則改正案に関する検討―クラブOB会の常任委員化について

- ・理事改選に関する意見交換

- ・3月27日評議員会の準備

- ・公式サイトへのリンクに関する検討

- ・会報平成22年春季号に関する検討

平成22年3月26日(金)

- ・関西北陵会（3月14日）出席の報告

- ・公式サイトへのリンクに関する方針の検討

- ・同窓会入会式（2月28日）の報告

- ・会則改正案に関する検討―クラブOB会の常任委員化について

- ・理事改選に関する意見交換

- ・一一〇周年記念事業実行委員会の人選に関する検討

- ・次年度予算案に関する検討

- ・会計状況の報告

- ・3月27日評議員会の準備

- ※理事会前に名簿業者サラトとの打合せ―仕様書案について
- 平成22年4月27日(火)
- ・鈴木会計理事のもう一年間の暫定留任についての要請

- ・一一〇周年記念事業同窓会名簿作成に関する株式会社サラトとの契約の報告

- ・学校側行事観櫻会（4月16日）出席の報告

- ・会則改正案に関する検討―常任委員の役割について

- ・予算案に関する検討―総会等における節約について

- ・会費納入状況の報告―年を追う毎の漸減傾向

- ・会費納入窓口としての銀行口座活用に関する検討

- ・公式サイトの運営に関する意見交換

- ・一一〇周年記念事業進捗の報告

平成22年5月19日(水)

- ・岩沼支部（6月19日）開催の連絡

- ・規約改正後必要となる予定のクラブOB会常任委員登録書式の検討

- ・監査作業の報告

- ・一一〇周年記念事業進捗の報告―校内環境整備基金創設案

- ・会費納入状況及び財政状況の報告

- ・5月29日(土)評議員会議案の準備

- ・公式サイトの運営に関する意見交換

平成22年8月25日(水)

- ・仙台市北陵会（6月22日）出席の報告

- ・一一〇周年記念事業進捗の報告―記念碑発注先選定過程の報告等

- ・会費納入状況及び財政状況の報告

- ・会報（平成22年12月発行予定）編集方針の検討

- ・次期理事の選考方式に関する意見交換

- ・クラブOB会常任委員登録書式の検討

平成22年10月1日(金)

- ・10月2日(土)評議員会向け準備

- ・岩手北陵会（9月18日）出席の報告

- ・一一〇周年記念事業進捗の報告

- ・会費納入状況及び財政状況の報告

- ・会報（平成22年12月発行予定）準備状況の報告―現下の収入状況では事務的連絡事項だけの掲載に留めた少頁数のものとならざるを得ない他。

- ・次期理事の選考方式に関する意見交換

- ・学校への助成金の支払い額についての検討

同窓生からの

寄贈本の御紹介

●落合道夫著

東京近代史研究所刊

「スターリンの国際戦略から見た大東亜戦争と日本人の課題」

落合 道夫殿（高14回）

会費納入状況の漸減傾向に歯止めかららず！

理事会

一、本年度の会費収入見通し
会員の皆さんには日頃から会費納入の推進にご協力をいただき、誠に有り難うございます。しかしながら皆さんのご協力にもかかわらず、会費の漸減傾向(後掲資料参照)には歯止めがからず、今年度の会費が昨年度実績額に到達できるかどうか危ぶまれる状況にあります。

今春号の「同窓会の財政ピンチ」欄で、もし昨年度並みの会費納入状況に止まった場合、今年度は大幅な支出削減をしなければならぬ旨の予告をしました。それが現実のものとなりつつあります。その一例として、この会報四十三号の発行に当たり、去る十月二日開催の評議員会の承認を得て、急遽特別会計からの借入れを前提とした補正予算を組まざるを得なくなりました。

特別会計からの借入れ分については、当然来年度予算で返済をしなければならず、来年度の予算編成は一層窮屈なものにならざるを得ない状況にあります。

このような中で、本年度は当面次のような経費削減策が

検討されています。

- ①支部総会旅費及び祝儀の節減(東京・東海・関西各支部総会への本部からの参加見合せ)
- ②教育問題研究費の削減
- ③学校への校内活動助成費削減の可否検討要請
- ④その他の細かい支出費目の節減

二、来年度の予算編成にあたって

さらに来年度の予算編成にあたっては、もし会費収入が本年度並みに留まった場合、次のような施策を考えなければなりません。

- ①会報の発行回数の削減(現在の年二回制から年一回制への切り替え)
- ②総会補填費の節減(本部総会に出席する各支部代表者の旅費・宿泊費等については、各支部負担に切り替える)
- ③地区総会旅費・祝儀の節減(前項——①に同じ)
- ④校内活動助成費の削減
- ⑤教育問題研究費の削減
- ⑥その他の費目の削減

このような状態が続くことになれば、母校発展への寄与のみならず、同窓会の活動自体が縮小・減退するという由々

しき事態にもなりかねません。

三、納入率の低い回期が大半

毎号掲載される「回期別会費納入状況」によると、納入率が二十%未満の回期が大半を占めています。この回期の常任委員や評議員の皆さんには大いに頑張っていたいただき、せめて二十%台の納入率に上げてほしいものです。そうすれば会費収入の現状は相当程度改善されることになります。

四、会費増収の方策

会費増収のための妙案はなかなか見あたりませんが、会報や懇親会等を通して会員個々人の

度会費振込用紙を持参の上、会費納入の協力をお願いする。

- ②同窓会総会・P同窓等の会合の際には、「臨時会費納入コーナー」を設け、会費納入意識の啓蒙に努めている。
- ③評議員や(回期・クラブOB会等)常任委員が一体となり、各会員に対して納入の督促を行っている。
- ④会報今号(秋季号)にも念のため会費の「払込取扱票」を同封し、まだ納入していない会員には振込んでいただくようお願いする。

今後とも会費増収のための具体的な方策があれば各理事・評議員・常任委員宛にご提案ください。

資料 年会費推移表
(除新入会員入会金)

年 度	納入総額 (千円)	対前年度比
平成18年度	9,545	
" 19 "	8,706	▲ 8.7
" 20 "	8,608	▲ 1.1
" 21 "	7,998	▲ 7.0
" 22 "	7,503*	▲ 6.1

(*10月末現在の暫定値)

同窓会会費の納め方について

・会費納入が未だの方へ

会費未納の方はこれからでも構いませんので、同封の振込用紙(払込取扱票)を御利用の上お振り込み願います。

・一言言いたい方へ

払込取扱票の通信欄は御連絡等に御利用頂いております。御意見もお寄せ下さい。内容によっては御了解頂いた上で会報に掲載致します。(理事会)

会費振込は銀行口座でも可能です！

従来、総会案内号(毎年6月発行)に会費払込票を同封し、郵便局でお払込頂いているところですが、銀行も御利用頂けます。銀行口座は次の通りです。

七十七銀行 芭蕉の辻支店
普通口座 宮城県仙台第二高等学校同窓会 会長西澤潤一
店コード 2004
預金口座番号 0097845

尚、お振り込みの際には卒業年(〇年三月)、及び御名前を必ず御記入下さい。また、振込手数料を差し引いた額の振込額として下さい。

郵便局でも銀行でも足をお運びの際に御利用願います。

平成二十二年年度発行 「同窓会名簿」 注文は済みましたか？

理事会

会員皆様のもとに情報確認のハガキは既に届いていることと思います。

返信用ハガキの投函と名簿の注文は、もうお済みでしょうか？

まだの方はお急ぎください。名簿への掲載の可否は、返信

用ハガキに明記しないと、そのまま掲載されてしまいます。また、注文がまだの方、同窓生の動向を知るのには、同窓会が発行するこの名簿が一番です。この機会を逃すと十年後の創立百二十周年まで待たなければなりません。同窓会は会員皆様の協力で成り立っています。その連絡先等の情報確認のためにも、今回の名簿発刊が重要です。会員皆様のご協力をお願いします。

叙 勲

旭日双光章

大里 篤志殿(高2回)

受 賞

黄綬褒章

山田 明之殿(高5回)

平成22年度科学技術賞

野村 忠孝殿(高7回)

科学技術賞

熊野 善介殿(高26回)

齊藤 勲殿(高13回)

熊野 善介殿(高26回)

熊野 善介殿(高26回)

熊野 善介殿(高26回)

PTA・同窓会合同新年懇親会 開催のお知らせ

日時：平成23年1月21日(金)
18時20分より

会場：江陽グランドホテル
4階「銀河」
＜地下鉄広瀬駅下車
西1番出口徒歩0分＞

会費：5,000円(予定)

奮って御参加下さい。参加御希望の方は、1月7日(金)まで同封の申込用紙でFAX送信又は電話で同窓会事務室まで御連絡下さい。

同窓会事務室 FAX 022-221-5686
電話 022-221-5651

2010年度 同窓会費納入状況

平成22年11月10日現在

	会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額		
中28	10	1	3,000	高2	160	52	156,000	高23	194	46	138,000	高44	194	11	33,000
中29	14	0	0	高3	174	72	216,000	高24	198	29	87,000	高45	213	14	42,000
中30	14	2	6,000	高4	209	85	255,000	高25	193	39	117,000	高46	215	17	51,000
中31	13	1	3,000	高5	199	64	192,000	高26	214	38	114,000	高47	240	9	27,000
中32	12	2	6,000	高6	220	78	234,000	高27	204	30	90,000	高48	231	10	30,000
中33	15	3	9,000	高7	179	60	180,000	高28	201	40	120,000	高49	244	17	51,000
中34	20	4	12,000	高8	217	62	186,000	高29	188	23	69,000	高50	225	9	27,000
中35	18	5	15,000	高9	221	75	225,000	高30	190	31	93,000	高51	228	13	39,000
中36	22	2	6,000	高10	267	77	231,000	高31	183	23	69,000	高52	221	16	48,000
中37	38	10	30,000	高11	263	106	318,000	高32	164	21	63,000	高53	248	10	30,000
中38	27	4	12,000	高12	242	71	213,000	高33	152	20	60,000	高54	249	14	42,000
中39	43	17	51,000	高13	220	59	177,000	高34	132	14	42,000	高55	256	24	72,000
中40	49	12	36,000	高14	256	84	252,000	高35	144	18	54,000	高56	259	19	57,000
中41	61	18	54,000	高15	233	74	222,000	高36	155	18	54,000	高57	276	20	60,000
中42	64	25	75,000	高16	224	53	159,000	高37	147	10	30,000	高58	278	31	93,000
中43	69	28	84,000	高17	236	55	165,000	高38	154	15	45,000	高59	287	27	81,000
中44	88	24	72,000	高18	195	39	117,000	高39	170	14	42,000	高60	282	39	117,000
中45	107	35	105,000	高19	209	53	159,000	高40	176	20	60,000	高61	291	47	141,000
中46	109	25	75,000	高20	177	36	108,000	高41	182	11	33,000	高62	306	63	189,000
中47	125	28	84,000	高21	243	56	168,000	高42	201	9	27,000	合 計	14,161	2,539	7,617,000
高1	129	30	90,000	高22	285	59	177,000	高43	200	14	42,000				

部 活 動 の 成 果

運 動 部 成 績

大会名 部 名	平成21年度		平成22年度	
	新 人 大 会 等		定期戦	総 合 体 育 大 会 等
硬 式 野 球 部	春季中部地区トーナメント 1 回戦 仙台二1-15仙台育英 敗者復活戦 仙台二1-3塩竈		仙台二 仙台一 1-6 負け	選手権大会 仙台二4-10古川工 秋季中部地区トーナメント 1 回戦 仙台二1-0 泉 2 回戦 仙台二0-4 仙台 敗者復活戦 1 回戦 仙台二9-4 生活文化大 2 回戦 仙台二7-4 学院榴ヶ岡 決定戦 仙台二3-7 塩竈
軟 式 野 球 部	秋季大会 仙台二2-4 仙台一		仙台二 仙台一 10-3 勝ち	春季大会 1 回戦 仙台二6-4 東北学院 2 回戦 仙台二0-4 仙台商業
サ ッ カ ー 部	地区予選 仙台二3-0 泉松陵 仙台二3-0 東北工大 仙台二0-4 聖和 (ベスト16) 代表決定戦 仙台二3-2 仙台 仙台二1-0 仙台一 県大会出場 県大会 1 回戦 仙台二2-1 佐沼 2 回戦 仙台二0-3 利府			地区予選 仙台二3-0 東北生文 仙台二1-0 学院榴ヶ岡 仙台二2-0 仙台工業 県大会 1 回戦 仙台二2-1 涌谷 2 回戦 仙台二0-3 利府 県ベスト16
ラ ゲ ビ ー 部	予選リーグ 仙台二12-28宮城水産 仙台二43-12多賀城・仙台東 (リーグ2位得失点差でトーナメント進出) 決勝トーナメント 1 回戦 仙台二19-15石巻工業 2 回戦 仙台二0-44気仙沼向洋		惜敗	県総体 2 回戦 仙台二27-22石巻 準々決勝 仙台二12-48仙台工業 高校総体7人制 仙台二24-0 仙台東 仙台二5-36仙台一 花園大会県予選 1 回戦 仙台二44-0 古川 2 回戦 仙台二12-47宮城水産 新人戦予選リーグ 仙台三・石巻合同7-15仙台三 仙台二・石巻合同69-0 高専名取・広瀬合同 仙台二・石巻合同17-19気仙沼向洋
陸 上 競 技 部	県新人大会 <男子> 110MH 8 位 堀田康平 400MH 8 位 堀田康平 走高跳 6 位 工藤健太 走幅跳 7 位 佐藤航紀 三段跳 3 位 工藤健太 8 位 佐藤航紀 砲丸投 6 位 伊藤優幹 やり投 1 位 白石 真 学校対抗フィールド2位 <女子> 400M 4 位 一瀬輪子 400MH 4 位 一瀬輪子 4×400MR 7 位 (佐藤(真)・一瀬・佐藤(里)・齋藤) 東北新人大会 <男子> やり投 1 位 白石 真 三段跳 5 位 工藤健太 <女子> 400M 一瀬輪子 予選敗退 400MH 一瀬輪子 予選敗退			県総体 <女子> 100M 8 位 佐藤真知 200M 5 位 佐藤真知 400M 3 位 一瀬輪子 400MH 4 位 一瀬輪子 400MR 8 位 一瀬・佐藤(真)・野地・吉村 1600MR 5 位 佐藤(里)・一瀬・渡邊・佐藤(真) <男子> 走幅跳 4 位 渡邊朝美 走幅跳 4 位 佐藤航紀 三段跳 2 位 工藤健太 3 位 佐藤航紀 砲丸投 8 位 伊藤優幹 やり投 1 位 白石 真 学校対抗フィールド1位 東北総体 <女子> 200M 佐藤真知 準決勝敗退 400M 一瀬輪子 準決勝敗退 400MH 8 位 一瀬輪子 1600MR 渡邊・一瀬・佐藤(里)・佐藤(真) 準決勝敗退 <男子> 走幅跳 10位 渡邊朝美 走幅跳 18位 佐藤航紀 三段跳 10位 工藤健太 17位 佐藤航紀 やり投 5 位 白石 真 (インターハイ出場)
ハ ン ド ボ ー ル 部	2 回戦 仙台二20-14泉松陵 (第6シード) 準々決勝 仙台二19-22仙台一 (第3シード) 県ベスト8		負け 仙台二 仙台一 24(14-12)-25(10-13)	春季選手権大会 2 回戦 仙台二16-13(17-12) 25仙台 準々決勝 仙台二25(12-14)-13(13-16) 30仙台一 (第3シード) 県ベスト8 県総体 1 回戦 仙台二29(14-10)-15(15-12) 22仙台育英 2 回戦 仙台二19(12-10)-7(7-10) 20利府 (第3シード) 県ベスト16
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	仙塩地区予選会 1 次リーグ 仙台二41-84 明成 仙台二135-17 秀光中等 代表決定トーナメント 仙台二72-72 多賀城 仙台二61-68 仙台工業 地区予選敗退		負け 仙台二 仙台一 45-81 通算成績 32勝28敗	仙塩地区予選会 1 次リーグ戦 仙台二74-60泉 仙台二64-73宮城広瀬 代表決定トーナメント 仙台二57-63仙台東 仙台二52-78泉松陵 最終代表決定戦 仙台二69-67仙台西 県大会出場 県総体 1 回戦 仙台二62-82名取北 1 回戦敗退
バ レ ー ボ ー ル 部	県新人大会 1 次リーグ 仙台二2-0 仙台西 仙台二2-0 明成 3 次リーグ 仙台二2-0 仙台一 仙台二1-2 仙台工業 仙台二0-2 東北学院 4 次リーグ 仙台二0-2 仙台商業 仙台二2-1 宮城工業 (仙塩地区第3位・県第8シード獲得)		負け 仙台二 仙台一 2-3 通算成績 29勝31敗	県総体 1 回戦 仙台二2-0 仙台南 2 回戦 仙台二0-2 石巻 全日本高校バレーボール選手権大会1次大会 1 回戦 仙台二2-0 多賀城 2 回戦 仙台二2-0 学院榴ヶ岡 3 回戦 仙台二0-2 小牛田農林 郡山選抜バレーボール招待試合 予選 仙台二1-1 帝京安積 仙台二2-0 宮城工業 仙台二0-2 東洋大牛久

大会名 部 名	平成21年度		平成22年度	
	新 人 大 会 等		定期戦	総 合 体 育 大 会 等
バレーボール部				順位リーグ 仙台二2-0 安積開成 仙台二2-0 酒田工業 仙台二2-0 須賀川桐陽 *26チーム中第13位 市民総体バレーボール競技大会 予選 仙台二2-0 生文大 仙台二2-0 泉館山 決勝トーナメント 仙台二0-2 仙台 *仙塩地区ベスト8
バドミントン部	個人戦 男子ダブルス 片山智文・矢野翔太組 ベスト32 女子シングルス 草 和美 ベスト32 学校対抗戦 〈男子〉2 回戦 仙台二3-0 岩出山 3 回戦 仙台二0-3 仙台向山 〈女子〉2 回戦 仙台二3-1 古川黎明 3 回戦 仙台二2-3 角田			宮城県バドミントン選手権大会 ダブルス 石田喬之・都築開成組 ベスト64 シングルス 石田喬之 ベスト64 県総体 個人戦 ダブルス 男子 小野寺駿・久米井智裕組 2 回戦敗退 李堯希・三浦暉組 3 回戦敗退 (ベスト64) 片山智文・矢野翔太組 3 回戦敗退 (ベスト64) 石田喬之・都築開成組 3 回戦敗退 (ベスト64) 女子 太宰 結・畠山萌恵組 1 回戦敗退 高橋菜理瑛・武藤涼子組 2 回戦敗退 服部麻衣・佐藤麻衣組 3 回戦敗退 (ベスト64) 草 和美・大友沙織組 3 回戦敗退 (ベスト64) シングルス 男子 片山智文 1 回戦敗退 都築開成 1 回戦敗退 小野寺駿 1 回戦敗退 石田喬之 3 回戦敗退 (ベスト64) 女子 太宰 結 1 回戦敗退 佐藤綾花 1 回戦敗退 大友沙織 2 回戦敗退 草 和美 4 回戦敗退 (ベスト32) 団体戦 男子 1 回戦 仙台二3-1 築館 2 回戦 仙台二3-1 大河原商 3 回戦 仙台二0-3 宮城工 (ベスト16) 女子 1 回戦 仙台二3-2 伊具 2 回戦 仙台二0-3 尚絅
テ ニ ス 部	県新人大会 個人 男子シングルス 高橋 諒 ベスト32 男子ダブルス 高橋 諒・栗野光晶ペア ベスト16 女子シングルス 太田むつか ベスト32 団体 男子 1 回戦 仙台二4-1 鹿島台商 2 回戦 仙台二3-1 聖和 3 回戦 仙台二0-3 東北学院 ベスト8 女子 1 回戦 仙台二4-1 名取北 2 回戦 仙台二3-1 仙台向山 3 回戦 仙台二1-3 東陵 ベスト8			団体の部 男子 2 回戦 仙台二0-2 仙台向山 女子 1 回戦 仙台二2-0 石巻 2 回戦 仙台二0-2 名取北 個人の部 男子ダブルス 高橋 諒・栗野光晶ペア ベスト16
ソフトテニス部	県新人大会 個人 1 回戦 千田・佐藤 0-4 仙台三 団体 2 回戦 仙台二2-0 気仙沼西 3 回戦 仙台二2-0 本吉響 4 回戦 仙台二2-1 石巻工 準々決勝 仙台二1-2 東北学院 団体ベスト8 進出により県インドア大会出場			高校総体 2 回戦 仙台二②-0 石巻西 団体戦 3 回戦 仙台二②-0 仙台三 4 回戦 仙台二1-② 仙台工業 個人戦 中島(1)・名嶋(2) 1 回戦 対白石工業④-0 2 回戦 対東北0-④ 千田(2)・佐藤(2) 2 回戦 対東北3-④
水 泳 部	<競泳> 県新人大会 男子学校対抗 80点 第3位 50m自由形 窪田平佑 第1位 100m自由形 窪田平佑 第3位 100mバタフライ 菅原崇広 第3位 200mバタフライ 菅原崇広 第4位 200mバタフライ 斎藤自快 第3位 男子400mリレー (窪田・菅原・新富・斎藤) 第3位 男子400mメドレー (斎藤・高橋・菅原・窪田) 第3位 200m個人メドレー 斎藤自快 第5位 100m平泳ぎ 高橋偉大 第5位 200m平泳ぎ 高橋偉大 第5位 男子800mリレー (菅原・高橋・窪田・斎藤) 第3位 50m平泳ぎ 安倍 築(オープン参加) 第1位 400m個人メドレー 中角美穂 第6位 東北新人大会 100mバタフライ 菅原崇広 第5位 200mバタフライ 菅原崇広 第5位 <水球> 県新人大会 仙台二9-4 柴田 第1位			<競泳> 県総体 男子学校対抗 71点 第3位 50m自由形 窪田平佑 第3位 100m自由形 窪田平佑 第3位 200m自由形 嶺岸大和 第5位 400m自由形 嶺岸大和 第4位 100m背泳ぎ 櫻尾泰斗 第7位 200m背泳ぎ 櫻尾泰斗 第8位 100m平泳ぎ 高橋偉大 第7位 200m平泳ぎ 高橋偉大 第5位 200m平泳ぎ 安倍 築 第8位 100mバタフライ 斎藤自快 第7位 200mバタフライ 斎藤自快 第5位 男子400mリレー (窪田・嶺岸・新富・斎藤) 第4位 男子800mリレー (嶺岸・窪田・高橋・斎藤) 第3位 男子400mメドレー (櫻尾・高橋・斎藤・窪田) 第3位 東北大会へ 男子400mリレー (窪田・嶺岸・菅原・斎藤) 第8位 <水球> 総体 決勝 仙台二7-5 柴田(4年ぶり4度目の優勝) 東北大会へ
卓 球 部	男子団体 1 回戦 仙台二1-3 古川 男子シングルス 1 回戦 河野3-0 鎌田(石巻工) 2 回戦 河野0-3 齋藤(古川学園)			県総体 男子団体戦 仙台二1-3 古川 2 回戦敗退 男子シングルス 嵯峨 1 回戦敗退 渋谷 4 回戦敗退 佐藤(泰) ベスト32 女子シングルス 和賀 2 回戦敗退

大会名 部 名	平成21年度	定期戦	平成22年度
	新 人 大 会 等		総 合 体 育 大 会 等
フェンシング部	男子フルーレ 森 大輔 ベスト16 団体戦男子 仙台二 2 - 5 仙台 団体戦女子 仙台二 0 - 5 仙台南		県総体 男子団体フルーレ 第3位 (細谷拓人、森 大輔、緒方洋介、及川新平) 1回戦 仙台二 V - 3 東北工大高 準決勝 仙台二 1 - V 仙台一 男子個人フルーレ 緒方洋介 準決勝進出 男子個人サーブル 手島 航 準決勝進出 女子団体フルーレ 第3位 (豊澤玲奈、富田侑希、藤井美帆、菅原朱莉) 1回戦 仙台二 V - 3 気仙沼西 準決勝 仙台二 1 - V 仙台南 女子個人フルーレ 藤井美帆 準決勝進出 女子個人エペ 藤井美帆 第1位 (インターハイ、東北大会出場) 富田侑希 第3位 (東北大会出場) 張替晶子 準決勝進出 女子個人サーブル 望月 潤 第3位 (東北大会出場) 選手権大会 女子個人エペ 藤井美帆、富田侑希 1回戦敗退 女子個人サーブル 望月 潤 2回戦進出 国体予選 少年男子の部フルーレ 及川新平 第4位 少年女子の部フルーレ 望月 潤 第4位 全国高総体 女子個人エペ 藤井美帆 予選トーナメント ブロック代表決定戦進出 (ベスト16) 県民体育大会 個人フルーレ 少年の部女子シニア 望月 潤 第3位 団体フルーレ 女子 第2位 仙台二高チーム (望月 潤、張替晶子、中鉢セリナ) 仙台市民総体 フルーレ個人 ジュニアの部男子 藤原路大 第3位 フルーレ個人 ジュニアの部女子 元井初音 第2位 フルーレ個人 シニアの部男子 及川新平 第2位 フルーレ個人 シニアの部女子 張替晶子 第3位 フルーレ団体 男子 第2位 仙台二高Aチーム (阿部隼也、及川新平、木曾康平、佐藤 匠) フルーレ団体 女子 第2位 仙台二高チーム (張替晶子、望月 潤、元井初音)
	男子団体予選リーグ 仙台二 4 - 1 古川学園 仙台二 5 - 0 加美農 決勝トーナメント 2回戦 仙台二 3 - 1 角田 準々決勝 仙台二 1 - 2 仙台 ベスト8 女子団体予選リーグ 仙台二 0 - 4 宮二女 仙台二 3 - 0 伊具 男子個人戦 浅野 4回戦敗退 福重 2回戦敗退 女子個人戦 楠 3回戦敗退 齊藤 2回戦敗退		県総体 男子団体予選リーグ 仙台二 3 - 1 仙台工業 仙台二 4 - 1 古川黎明 予選リーグ1位 決勝トーナメント 1回戦 シード 2回戦 仙台二 4 - 1 岩ヶ崎 準々決勝 仙台二 0 - 4 仙台 ベスト8 女子団体予選リーグ 仙台二 5 - 0 石女商 仙台二 2 - 1 石巻商 仙台二 2 - 1 泉館山 予選リーグ1位 決勝トーナメント 1回戦 仙台二 1 - 3 東北 ベスト16 男子個人戦 浅野勝思 5回戦敗退 ベスト16 伊藤駿介 2回戦敗退 女子個人戦 楠 怜奈 1回戦敗退 齊藤 愛 1回戦敗退 国体予選会 男子団体予選リーグ 仙台二 2 - 0 仙台三 仙台二 2 - 3 佐沼 勝者数差で1位 決勝トーナメント 1回戦 不戦勝 2回戦 仙台二 0 - 2 東北学院 ベスト16 女子団体予選リーグ 仙台二 0 - 5 小牛田 仙台二 3 - 0 塩釜 予選リーグ2位 仙塩支部新人剣道大会 男子団体 1回戦 仙台二 1 - 1 仙台三 本数勝ち 2回戦 仙台二 3 - 1 東北 本数勝ち 3回戦 仙台二 1 - 1 高専広瀬 本数勝ち 準決勝 仙台二 2 - 3 東北学院 第3位 女子団体 1回戦 仙台二 3 - 0 泉館山 2回戦 仙台二 2 - 1 仙台二華 3回戦 仙台二 1 - 3 仙台三桜
柔 道 部	団体 (五人制) 予選リーグ 仙台二 0 - 4 白石 仙台二 0 - 5 気仙沼 仙台二 3 - 1 米谷工業 決勝トーナメント1回戦 仙台二 1 - 3 宮農 男子個人戦 60kg級 千葉 (2年) 73kg級 佐藤 (2年) 73kg級 松本 (1年) 100kg級 木村 (2年) 1回戦敗退 女子個人戦 佐藤 葵 (2年) 第3位		県総体 団体戦 仙台二 0 - 4 宮農 仙台二 0 - 5 築館 予選リーグ敗退 個人戦 60kg級 菊地拓磨 予選トーナメント1勝・敗退 60kg級 千葉直貴 予選トーナメント敗退 73kg級 佐藤彰哲 予選トーナメント敗退 81kg級 小坂 徹 予選トーナメント敗退 100kg級 木村 峻 予選トーナメント敗退 女子 佐藤 葵 予選トーナメント敗退

大会名 部 名	平成21年度		平成22年度	
	新 人 大 会 等		定期戦	総 合 体 育 大 会 等
弓 道 部	平成21年度功労選手 高橋和希 仙塩地区秋季大会 団体男子予選 Aチーム 11中通過 (廣澤・木村・植木・浅野・齋藤) Bチーム 1中敗退 (加藤・篠崎・楡尾) 決勝トーナメント 1回戦 Aチーム 7中－8中 仙台南 敗退 男子個人 廣澤が予選通過し決勝まで進出 第2位 団体女子 予選 0中 敗退 (熊倉・菅原・千田・土居) 個人女子 全員予選敗退 秋季県大会 団体男子 (廣澤・木村・植木・浅野・齋藤・加藤・楡尾) 1次予選 9中通過 2次予選 10中 合計40射19中で通過 準々決勝 6中 合計60射25中で敗退 ベスト16 個人男子 廣澤のみ予選通過で勝ち進み決勝で7位 合計20射15中 射道2位 団体女子 (熊倉・菅原・千田・土居) 1次予選 1中 敗退 個人女子 全員予選敗退		二高A 一高B ○12－8 二高A 一高A 10－17○ 二高B 一高B 3－11○ 二高B 一高A 7－15○ 負け	仙塩地区大会 団体男子Aチーム 予選20射11中で通過 決勝トーナメント 1回戦 ○仙台二A12－9 東北学院A 準々決勝 ○仙台二A14－11東北学院D 準決勝 ○仙台二A13－12利府A ×仙台二A10－12塩釜A 第2位 団体男子Bチーム 予選20射5中で敗退 団体女子 (3人で参加) 予選12射1中で敗退 個人予選通過者 (4射4中) 2明 個人決勝 浅野敬介 第2位 廣澤一志 第5位 総体 団体男子 1次予選 20射15中で43校中1位通過 2次予選 20射13中 計40射28中で3位通過 準々決勝 20射10中 計60射38中で4位通過 準決勝 20射16中 計80射54中で1位通過 決勝リーグ 第1試合 ×仙台二10－13仙台一 第2試合 ○仙台二15－14石巻好文館 第3試合 ○仙台二11－10泉 第4試合 ○仙台二13－10東北学院 第2位で東北大会出場 射道審査 優秀賞 (第2位) 団体女子 1次予選 人数不足で3人の参加12射4中で敗退 個人 1次予選 参加11名 通過者7名 (女子1名含む) 2次予選 参加7名 通過者2名 (男子のみ) 準々決勝 参加2名 通過者2名 準決勝 参加2名 廣澤一志 13中で通過 加藤海輝 12中で敗退 決勝 廣澤一志 16中で3位タイ 遠近競射 第3位 最優秀賞 (第1位) 東北大会 個人 廣澤一志 予選 8射7中で通過 準決勝4射4中で通過 決勝射詰め1射目×で敗退 団体男子 予選1回目20射13中 計40射24中で通過 決勝トーナメント1回戦 ×仙台二9－13福岡 (岩手) 団体メンバー (廣澤・木村・加藤・浅野・植木・齋藤・楡尾)
山 岳 部	第3位			第3位
ヨ ッ ト 部	県新人大会 男子FJ級 ソロ競技 1558艇 稲舟・蒲生組 第8位			県大会 男子FJ級 デュエット競技 第3位 ソロ競技 1558艇 稲舟・蒲生組 第5位 1503艇 乙竹・鈴木・伊藤組 第6位 東北大会 男子FJ級 デュエット競技 第5位 ソロ競技 1558艇 稲舟・蒲生組 第17位 1503艇 乙竹・鈴木・伊藤組 第12位 国体予選 少年男子シーホッパー級SR 乙竹 第2位 稲舟 第5位 少年女子セーリングスビリッツ級 鈴木 第2位 全日本FJ級ヨット選手権 1558艇 稲舟・鈴木・伊藤組 第25位 1503艇 乙竹・鈴木組 第21位

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績 (平成22年11月まで)

部 名	成 績	部 名	成 績
美術部	県高校美術展 優秀賞 鈴木 祥恵 (全国総合文化祭へ出品) 優秀賞 鈴木しおり 仙台市内高校美術展 優秀賞 松野 優紀 ポスター賞 松野 優紀 ポスター賞 モンタニョミチル照葉	写真部	第34回全国高等学校総合文化祭 (宮崎大会) 奨励賞「我が定位置」 3年 大関 祐介 第9回宮城県高等学校夏季写真コンテスト 最優秀「明暗」 2年 櫻井 一貴 優良賞「一等の証」 2年 加藤 民夫 優良賞「主役はどっち」 1年 櫻庭 真弓 優良賞「明星」 1年 佐藤 祐輔 第17回宮城県高等学校写真展 金賞「私が先に見つけたの。」 1年 泉 佑季 (第35回全国高等学校総合文化祭 (福島大会) 県代表出品対象作品) 銅賞「だじょうぶだよ」 2年 海老原 椿 入選「透ける碧空」 1年 泉 佑季 佳作「夕空を測る」 2年 安東 美香 優秀校として表彰
吹奏楽部	第23回定期演奏会開催 (7/3東京エレクトロンホール宮城) 全日本吹奏楽コンクール第53回宮城県大会予選仙台青葉・泉地区大会 高等学校の部 銀賞 審査員特別賞 北陵祭オープニングセレモニー演奏 定禅寺ストリートジャズフェスティバル エコボランティアとして参加 仙台二高創立110周年記念式典校歌演奏 アンサンブルコンテスト仙台青葉地区大会参加予定 東北吹奏楽の日演奏会参加予定 合同演奏 (仙台三高・泉松陵高・聖ドミニコ学院) 仙台青葉プラスフェスティバル参加予定	生物部	社団法人日本動物学会東北支部大会高校生発表 優秀賞 川村真亜子 第63回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「河川における浄化作用についてのモデル実験」 川村真亜子・横内 洸・横道 瞭・吉田 悠人

部 名	成 績	部 名	成 績
物理部	第63回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「水素バズーカの製作」 伊藤 開、松山 孝光、馬目 脩平 早坂 美月、田中 健也、出田 裕史 優秀賞「電磁飛翔体加速装置（レールガン）の製作」 伊藤 開、松山 孝光、馬目 脩平 早坂 美月、田中 健也、出田 裕史	囲 基 部	第 4 回全国選抜囲碁選抜大会（大阪商業大学3/20～21） 東北代表 全国第6位 星 哲彦（3年） 九路盤大会 全国第8位 紺野 文敬（2年） 団体 全国第7位 （星 哲彦、後藤 馨（3年）、紺野 文敬） 第34回全国高校総合文化祭囲碁部門（県体表決定戦4/18・宮城一高） 宮城県代表 後藤 馨、紺野 文敬 第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権宮城県大会 （6/25戦災復興記念館） 個人A1位 星 哲彦 全国個人戦 宮城県第一代表決定 第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権宮城県大会 （6/26仙台二高北陵館） 団体1位 仙台二高 全国代表決定 （星 哲彦、藤岡 天斗（1年）、紺野 文敬） 第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権宮城県大会・個人 第二代表決定戦（6/27宮城一高） 個人 藤岡 天斗 全国個人戦 宮城県第二代表決定 第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会 （7/26～28日本棋院）全国2位 宮城県男子初の決勝進出 宮城県代表団体準優勝 星 哲彦、藤岡 天斗、紺野 文敬 個人予選リーグ敗退 星 哲彦、藤岡 天斗 第34回全国高校総合文化祭囲碁部門（8/4～5宮城県日向市） 団体戦 団体26位 （大将：後藤 馨 副将：紺野 文敬） 2010年度学生十傑戦東北大会（東北地区の大学生・大学院生・高校生が一律に勝負する大会） 第6位 紺野 文敬 五段 第11回宮城県高校囲碁九路盤大会（10/15東京エレクトロンホール宮城） 1位 紺野 文敬、2位 後藤 馨、 3位 藤岡 天斗、7位 名本 翔太 第24回東北地区高等学校囲碁選手権大会（11/12～13山形県上山） 男子団体優勝（宮城県代表チーム 主将 藤岡 天斗、 副将 紺野 文敬）・個人優秀選手（紺野 文敬） 第5回全国高校選抜大会出場決定 団体（仙台二高 主将 藤岡 天斗 六段、 副将 紺野 文敬 五段、三将 伊藤 正樹 五段） 個人（紺野 文敬）
地学部	第63回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「円筒円錐台形投影機の開発についての報告」 細井 一矢、柳沼 和文、高橋 諒 優秀賞「季節風がない状態での日本の気候の予測」 徳田 慎平、赤間 萌衣、塩谷梨沙子 早坂 駿、安孫子 慎、石井 芳樹	将棋部	第46回全国高校将棋選手権宮城県予選会 団体戦 優勝 2年 遠藤太太郎、1年 渡邊健太郎、3年 沼倉龍之助 個人戦（女子）優勝 1年 成田 弥穂 第46回全国将棋選手権大会（宮崎） 団体戦 予選リーグ 3勝1敗で通過 決勝リーグ 仙台二高1～2新潟高校 ベスト16 個人戦 予選リーグ 4勝全勝で通過 決勝リーグ 3回戦 成田●―山口（盛岡一高） 全国代表 104名中5位 第27回宮城県高等学校将棋新人大会（個人戦のみ） 準優勝 遠藤太太郎 7位 渡邊健太郎 遠藤太太郎（2年）、成田 弥穂（1年）は、平成22年12月の東北大会（仙台）23年1月の全国大会（栃木）の出場権を獲得
化学部	工学院大学主催 第17回全国高等学校理科・科学クラブ研究論文 努力賞「Belousov-Zhabotinsky 反応の諸条件と周期の（3位）変化」紺野 雄介、木村 大、庄子 佳祐 努力賞「ケミカルガーデンの電場による成長制御と（3位）成長理論」 鎌田 有紘、山田 善光、小原 典紘、佐藤旺士郎 出 品「陽極酸化による Ag2O3生成とその回収法について」日置 友智、安東 沙綾、山田 学倫 全国高校化学クラブ2010 大 賞 紺野 雄介（東北1位 全国最高位） 金 賞 立川 常太（東北2位 全国6～15位） 東北支部長賞 鎌田 有紘、李堯希、浅野 壮宏 第17回全国高等学校デザイン選手権大会 出 品「ありごみ処理」 成田 衛、針生 崇史、阿隈 結夢 出 品「味覚の記録媒体 味レコダー」 鈴木 潤、桃野 幸文、成田 衛 入 賞「つなげて覚える有機化学ゲーム」 桃野 幸文、山崎 知之、大村 啓貴 決勝大会へ進出 第2回坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト 入 賞「ヘキサナンミンコバルト(Ⅲ)塩並びに他のコバルト錯体に関する研究」 星川 貴樹、渡邊 健吾、松橋 洋介 第54回読売学生科学賞 仙台市長賞「ケミカルガーデンの新理論と実証」 鎌田 有紘、山田 善光、小原 典紘、佐藤旺士郎 中央審査（全国大会）に出品 第9回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞 出 品「濃硝酸と銅の反応における色の変化についての研究」鈴木 潤、阿隈 夢結、成田 衛 出 品「一価銅イオンと黄色沈殿に関する研究」 大村 啓貴、針生 崇史 第8回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ 高校生科学技術チャレンジ JSEC2010 「セレンディビティーによる特異な酸化数を持つ金属酸化物の合成」日置 友智、山田 学倫、安東 沙綾 ファイナリストとして決勝大会へ進出 第54回読売学生科学賞 仙台市長賞「ケミカルガーデンの新理論と実証」 鎌田 有紘、山田 善光、小原 典紘、佐藤旺士郎 中央審査（全国大会）に出品 佳 作「電気分解を用いた方法における銅樹生成の自己相似的特性と、自己相似性に伴う成長の特徴に関する考察」 日置 友智、山田学倫、安東 沙綾 佳 作「過酸化銀の生化学的効果の研究」安東 沙綾 佳 作「シリカゲルの製造過程における考察」柳澤 淳 佳 作「濃硝酸と銅の反応における色の変化についての研究」鈴木 潤、阿隈 夢結、成田 衛 第63回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「ケミカルガーデンの電場による制御と成長理論」 鎌田 有紘、山田 善光、小原 典紘、佐藤旺士郎 優秀賞「シリカゲルの製造過程への考察」柳澤 淳 優秀賞「セレンディビティーによる教科書にはない金属酸化物の合成」日置 友智、山田 学倫、安東 沙綾 来年度全国高文連祭県代表選出発表 優秀賞「酢酸ナトリウムの準安定状態における安定性の研究」 桃野 幸文、山崎 知之 優秀賞「一価銅イオンと黄色沈殿に関する研究」 大村 啓貴、針生 崇史、久保 昭悟 優秀賞「濃硝酸と銅の反応における色の変化についての研究」鈴木 潤、阿隈 夢結、成田 衛 第54回読売学生科学賞 中央審査 入賞3等（本校2年連続通算3回目の全国入選） 「ケミカルガーデンの新理論と実証」 鎌田 有紘、山田 善光、小原 典紘、佐藤旺士郎	書道部	第62回全国学生書道展 全国表彰彩 宮城県仙台第二高等学校 全日副会長賞 3年 遠見ふゆみ、笛 静華 奨励賞 3年 坂野美紗子、橋浦 龍彦 2年 小野 春菜、平井 弥生、小坂 徹 荒木 沙月、宮澤 友里、舟越 利紗 1年 高橋 諒 第20回毎日書道宮城県高校選抜書展 毎日賞 2年 小坂 徹 東北電力賞 2年 小野 春菜 特 選 2年 荒木 沙月 秀 作 2年 杉原 健 第58回宮城県高等学校書道展 推 薦 小坂 徹 第3部 特選 小野 春菜 笛 静華 第4部 推薦 平井 弥生 特 選 遠見ふゆみ 第5部 特選 橋浦 龍彦 ※第1部 漢字、第2部 仮名、第3部 漢字仮名交じり 第4部 刻字・篆刻、第5部 一字書 第59回宮城県高等学校書道展 第1部 推薦 小野 春菜 第3部 特選 小野 春菜 特選 梅津 美奈 第4部 推薦 平井 弥生 第2部 推薦 遠見ふゆみ 小坂 徹 ◆放送部 NHK杯全国放送コンテスト宮城県大会 朗読部門 予選 高野 研、石井 悠樹、奥山 智朗、小野寺研治 小松弘香、千須和侑里子、橋本 果歩 ペロスルドヴァオリガ 宮城県高等学校放送コンテスト新人大会 朗読部門 予選 石井 悠樹、奥山 智朗、小野寺研治 小松 弘香、小犬丸可奈恵、橋本 果歩
合唱部	第62回宮城県合唱祭 参加	そ の 他	

写真部

全国高総文祭に参加して

三年五組 大関 祐介

青空のもとに照りつける灼熱の太陽、うだるような暑さ、そして天高く伸びるフェニックス。南国情緒漂う宮崎の地で、幕を開けた全国高等学校総合文化祭。直前まで心配されていた口蹄疫の問題も無事に落ち着き、より一層の情熱と意気込みに溢れた大会でした。

私が参加した写真部門は、宮崎市民プラザを会場に、各都道府県の代表作品や地元宮崎、そして日韓交流写真の数々が展示されました。いうまでも無く選抜された作品ばかりで、写真の構図や題名の付け方・表現の手法が多彩で興味深く、学ぶべき点が多くあり、全国のレベルの高さを痛感させられました。このようなハイレベルな中で今回出品した「我が定位置」という作品が奨励賞を受賞する事ができ、未だに信じられませんが高評価をいただいたという事で嬉しさも倍増でした。

翌日、青島周辺で行われた撮影会。どこまでも青い海と白い砂浜、美しい海岸線をメインに、「夏のイメージ」をカメラに映します。限られた時間の中で三〇〇人超が一斉にシャッターを切り、作品を作り出す刺激的な体験でした。講師の先生の講演や、各県の高校の写真部の方々と交流など、滅多にない「全国大会」ならではの体験が出来るのも貴重な経験であり、映像の訴える力・楽しさ・



宮崎県庁前にて

感動、本当に奥深いなあという事を改めて実感させられ、有意義で、充実した三日間を過ごせたと幸いです。

最後に、三年間顧問をして頂き大変お世話になりました、主幹教諭の高橋時明先生をはじめ、一年次から熱心に御指導頂きました先輩方、様々な面で私たちの活動をサポートしてくだされた後輩の皆様ありがとうございました。感謝しております。

お筆になりましたが、仙台二高のより一層の御発展をお祈り致します。

将棋部

高総文祭宮崎大会に出場して

三年七組 沼倉龍之助

私たち将棋部は、男子団体戦と女子個人戦で宮城県大会を勝ち抜き、八月二日と三日に宮崎県で行われる全国大会に出場した。

私は男子団体戦に出場したのだが、県予選の決勝で自分が相手に勝った時、嬉しい一方、信じられない気持ちでいっぱいであった。自分が全国大会に行くことが信じられなかった。その後は、全国大会に行くという重責を感じながら日々の対局を行っていた。

全国大会当日は、やはり全国大会に行くという重い責任を背負いながら、緊張して大会会場に向かい、対局中も常に緊張していた。しかし、後輩の支えもあり予選を突破することができた。だが、決勝トーナメントでは全力を尽くしたものの敗れ、ベスト16に終わってしまった。

この大会で感じたことは、団体戦で勝つためには結束力が必要だということである。もちろん、個人の棋力も大切である。しかし、仲間同士で結束することは、個人の力をさらに高める。結束力があれば格上の相手に勝つこともあろうし、逆に弱いと勝負どころで悪手や疑問手をさしてしまうという、そのまま負けてしまうということ

が起こりうるのである。

このような結束力は、将棋に限らず他の場面でも生きてくるとして、今年の結束力の大切さを私に教えてくれた、この全国大会の経験は、私を大いに成長させてくれることであろう。

将棋部は、代々強い先輩方が多く集まっており、これまで幾度となく全国大会に出場してきた。そして、今年も全国大会に出場し、遜色のない成績を収めることができたのは先生、先輩方、そして後輩たちのおかげである。心から感謝申し上げたいと思います。

そして、後輩たちには、来年はさらに上を目指して頑張ってもらいたい。

囲碁部

全国大会に出場して

三年七組 星 哲彦

今年の団体戦は、副将藤岡天斗、三将紺野文敏、主将星のメンバーで、県予選を勝ち抜き、全国大会に臨んだ。同種目では去年、一昨年と連続で全国四位に入賞していたので、今年はそのさらに上を目指したいと意気込んでいた。

予選リーグは六校で二ブロックとし、その中で三回戦。チームとして一回でも負けると枠抜けが危うくなるため、一瞬も油断できない戦いが続く。緊張していたが、私たちは全員全勝で決勝トーナメント進出を果たすことができた。

決勝トーナメント一回戦で浅野高校（神奈川）、同二回戦（準決勝）で高崎高校（群馬）と対局した。いずれも強豪校だったが、それぞれ三対〇、二対一で下すことができた。

翌日の決勝戦では西京高校（京都）に二対二で敗れたものの、準優勝という結果を残せたので、よかったと思う。

後輩たちには、来年もまた優勝を目指してがんばってほしい。最後に、東京で私たちを指南してくださった宋光復先生と洪道場

の皆様、練習試合を組んでくださった東北大学囲碁部とOBの皆様、顧問の渡辺先生、そして会場に駆けつけてくださった前顧問の佐藤先生、同窓生の皆様その他私たちに応援してくださった皆様にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

陸上部

インターハイを終えて

三年六組 白石 真

私は七月下旬から八月上旬にかけて沖縄県総合運動公園陸上競技場で開催されたインターハイに出場してきました。二高陸上部は私の代で三年連続インターハイ出場を果たしており、そのため今回は出場だけで終わらず、入賞することを目指して競技に臨みました。

前日まで天気が安定していなかったためコンディションが気かりでしたが、当日は競技を行うには絶好の状態であり、やる気が増したことを今でも覚えています。

競技が始まり、予選一、二投目を投げ終え、ともに良い結果ではなかったため不安を感じましたが、最後の一投は悔いの残らないように、最後の全力で投げることだけを考えてました。最後の一投は一、二投目と違い手応えを感じましたが、それでも予選通過標準記録を越えることはできず予選敗退となってしまいました。

試合後は負けた悔しさもありましたがそれよりもむしろ、試合で引退を迎えられることに喜びを感じました。インターハイという誰もが目標とする大会に出場しそこで経験できたことはこれからも色あせることのない一生の宝です。そして後輩には更なる飛躍を期待しています。

最後になりますが、日頃から親身になって指導していただいた黒崎先生、応援してくださった先生方、生徒の皆さん、そして同窓会の皆様に感謝と御礼を申し上げます。

フエンスシング部

インターハイに出場して

三年三組 藤井 美帆

私は七月二十九日から四日間、沖縄県金武町において行われた全国高総体にエベ宮城県代表として出場した。

正直、試合はあまり楽しみでなかった。団体戦で皆と一緒に上の大会で戦うのが私の夢だったし、何より六月末に行われた東北大会では、思うような自分のプレーが出来ず、初戦敗退という苦い経験を味わったからだ。他の宮城県勢が素晴らしい成績を収めていただけに、本場に私が全国に行く資格があるのかどうかをずっと悩み続けていた。

自分に自信が持てないまま、最後の大会の日がやってきた。練習量に不安はあったものの、相手のペースに飲まれることなく、体もよく動いていたように思う。ベンチに居るたびにいたく須田先生のアドバイスに、とても勇気づけられた。自分なりに冷静に試合運び、予選プールは三勝二敗で予選順位十七位、なかなかの結果だった。

予選トーナメント一回戦は予選順位十六位の相手で、私が苦手とする左利きの選手だった。序盤にリードを許したが、一点ずつ着実に点を重ね、なんとか逆転することができた。

トーナメント二回戦の相手は、予選順位一位の日本代表の選手だった。自分と相手の間に大きな実力差があることは分かっていたので、出来るだけ楽しんでプレーしようと思った。最終的には五―一六で敗北、ベスト16という結果で私のインターハイは終わった。

最後になりましたが、顧問の須田先生や奥山先生をはじめとした二高の先生方、指導してくださったコーチの加畑さん、応援してくださったOBの方々に心からお礼申し上げます。

会 員 計 報

会 員 計 報																																	
7 17	7 17	6 13	3 23	3 7	2 7	平成 21年	12 10	10 11	9 28	8 21	4 9	平成 20年	11 20	9 24	平成 19年	9 18	5 20	4 4	平成 18年	10 10	2 17	平成 17年	7 15	4 15	平成 16年	11 26	11 8	6 8	平成 14年	菅原 達夫殿	大沼正太郎殿	中21回	
中村 亨殿	二木 道郎殿	村上 次男殿	庄子 達央殿	羽田 兵吉殿	安積 光男殿		浜田 彰殿	坊沢 洋志殿	中野 栄一殿	森 裕殿	折居 正之殿	手島甲子郎殿	宮本 俊夫殿	岡田俊三郎殿	早坂 功殿	菊地 暢殿	加藤 茂夫殿		但木 博殿	水田 虎雄殿	河内 康雄殿	佐藤 恒夫殿		松川 安満殿	佐々木宣生殿	塩沢平次郎殿							
中45回	中40回	中31回	中19回	中38回	中44回		高14回	高10回	高7回	高35回	高22回	中42回	高2回	高8回	高2回	高1回	中34回		高2回	中38回	高2回	高2回		高4回	高7回	高2回	高11回						
7 26	6 30	6 26	6 11	6 2	5 28	5 28	5 27	5 10	5 9	5 4	4 21	4 15	4 13	4 4	3 26	3 18	3 3	2 13	2 8	2 5	1 29	1 27	1 9	平成 22年	12 9	12 22	11 22	11 11	10 30	9 21	8 21	8 20	
今野 勇殿	大日方 昭殿	芳賀 幸夫殿	氏家 琢磨殿	藤原 正明殿	高橋日出丸殿	伊手 重義殿	三浦 浩殿	前山 光殿	安藤 太郎殿	横田 徹郎殿	中嶋 明勲殿	梅村 周香殿	桑島 平治殿	阿部 豪殿	伊地知輝雄殿	河本 道隆殿	高橋 正道殿	岩松 正人殿	藤島 孝雄殿	国井 和男殿	内野 治人殿	中村 衛殿	国府田英明殿	猪岡 武夫殿	小山内聖浩殿	松浦 誠殿	吉川 清隆殿	舟橋 元夫殿	八木 力殿	大河内鋭一殿	加藤 喜昭殿		
中40回	高2回	中47回	中42回	高4回	高3回	高3回	高11回	中43回	中27回	中36回	高4回	高15回	中33回	中38回	中45回	高12回	高28回	高6回	中46回	中46回	高2回	中43回	中35回	高11回	中38回	高2回	高2回	中28回	中45回	高3回	高3回		

計報の訂正

会報第42号

(平成21年12月1日発行) 分

中46回南條敏夫殿の計報について次の通り訂正致します。

正 中34 南條敏夫殿

昭和55年6月25日

正 中46 南條敏夫殿

平成20年11月23日

中34回南条殿の御家族から昭和55年没との御連絡を直接頂いたことと、『条』と『條』の違いが有るにも拘わらず同一人物と編集係が混同したことによる誤りでした。御関係の方々にお詫び申し上げます。共に、近似名の峻別に一層の注意を払い再発せぬよう努めます。

(二)菅原成爾殿の計報について次の通り訂正致します。

誤 平成21年2月5日

菅原成爾殿(高63回)

正 平成21年2月5日

菅原成爾殿(高3回)

菅原成爾殿(高3回)

(三)佐藤正治殿の計報について次の通り訂正致します。

誤 平成19年2月13日

佐藤正治殿(高61回)

正 平成19年2月13日

佐藤正治殿(高1回)

会報平成22年度春季号

(平成22年6月10日発行) 分

中38回木戸二郎殿の計報について次の通り訂正致します。

誤 平成22年3月31日

木戸次郎殿(中38回)

正 平成22年3月31日

木戸二郎殿(中38回)

誤 直人低

誤 直人低

誤字の訂正

前号(平成22年春季号)の編集後記中にある岩崎先生の御名前について次の通り訂正致します。

誤 直人低

誤 直人低



二高への交通の便

< 仙台駅前から >

▶ 仙台市営バス・・・仙台駅前バスプール16番から730、739系統『二高・県美術館前』下車、運賃180円

▶ 仙台市営市内観光循環バス『るーぶる仙台』・・・仙台駅前バス乗り場15-3番、運賃250円(1回券)、600円(1日券)。但し、瑞鳳殿、大橋、青葉山、八幡神社等とを大きく経由してから二高前に到達、時計回りのみの循環運行です。

編集後記

中42回南條信郎様から『仙台中移転秘史』に関する一文を頂きました。この秘史は母校中興の祖河合絹吉校長が母校が現川内に立地するに至った経緯をお書きになったものです。資料等を準備し次号にて取り上げたく存じます。有り難うございました。

(会報担当)

百十周年名簿編集の過程にて中46回の方から、中46回の卒業は五年在学の昭和二十一年ではなく中45回と同じの昭和二十年、戦争中の特例により繰り上げ卒業でしたとの御指摘を頂きました。歴史の重さを改めて感じた次第です。

(高28回 佐藤 茂)